

様式7

年間指導計画表(シラバス)

科目名	物理基礎	単位数	2 単位
		学年等	2年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書:数研出版「物理基礎」</p> <p>副教材:数研出版「リードα物理基礎・物理」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物理学的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物理学的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[第Ⅰ章 波の性質] 第1節 波と媒質の運動 第2節 波の伝わり方 [第Ⅱ章 音] 第1節 音の性質 第2節 発音体の共振・共鳴 第3節 ドップラー効果	・定期考査 ・実験レポートの記述分析	・定期考査等 ・実験レポートの記述分析	・提出物等 ・実験レポートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点
後期	[第Ⅲ章 光] 第1節 光の性質 第2節 レンズと鏡 第3節 光の干渉と回折 第4節 正弦波 [第Ⅳ章 電気] 第1節 物質と電気 第2節 オームの法則 第3節 直流回路	・定期考査 ・実験レポートの記述分析	・定期考査等 ・実験レポートの記述分析	・提出物等 ・実験レポートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前 期	4	〔第Ⅰ章 波の性質〕	18
	5	第1節 波と媒質の運動 探究活動1	
	6	① 波動 ②波の発生 ③波の表し方 ④波の表し方 第2節 波の伝わり方 探究活動2 第3節 重ね合わせの原理 ②定常波 ③波の反射 ④波の波面	
	----- 第1回考査		
	7	〔第Ⅱ章 音〕	
	8	第4節 音の性質	
	9	①音波 ②音の3要素 ③音の速さ ④音の伝わり方 ⑤うなり 第5節 発音体の共振・共鳴 探究活動3 ② 弦の振動 ②気柱の振動 ③共振・共鳴 第5節 ドップラー効果 探究活動4 ① ドップラー効果 ②音源や観測者が動く場合 ③いろいろな場合の現象	
	----- 第2回考査		
	後 期	10	
11		第1節 光の性質 探究活動5	
12		① 光とその種類 ②光の速さ ③反射と屈折 ④全反射 ⑤スペクトル 第2節 レンズと鏡 探究活動6 ① 凸レンズ凹レンズ ②実像と虚像 ③組み合わせレンズ ④平面鏡 ⑤球面鏡 ⑥実像と虚像	
----- 第3回考査			
1		第3節 光の干渉と回折 探究活動7	
2		第4節 正弦波	
3		〔第Ⅳ章 電気〕 第1節 物資と電気 第2節 オームの法則 探究活動8 第3節 直流回路	
----- 第4回考査			
----- 18			

5 その他

○単に知識として理解するだけでなく、学習内容と身近な自然現象を関連させて物事をとらえ、化学の有用性や学ぶ意義を感じてほしい。

○考査間に実験や観察による探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	物理	単位数	3単位
		学年等	2年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書:数研出版「物理」</p> <p>副教材:数研出版「リードα物理基礎・物理」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物理学的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物理学的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔第I章 運動とエネルギー〕 第1節 運動の表し方 第2節 運動の法則 第3節 剛体 第4節 仕事とエネルギー	・定期考査 ・実験レポートの記述分析	・定期考査等 ・実験レポートの記述分析	・提出物等 ・実験レポートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点
後期	〔第III章 力と運動〕 第1節 運動量の保存 第2節 円運動 第3節 単振動と万有引力 〔第IV章 熱と気体〕 第1節 熱とエネルギー 第2節 気体のエネルギーと状態変化	・定期考査 ・実験レポートの記述分析	・定期考査等 ・実験レポートの記述分析	・提出物等 ・実験レポートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前 期	4	〔第Ⅰ章 運動とエネルギー〕	27
	5	第1節 運動の表し方 探究活動1	
	6	① 速度 ② 加速度 ③ 落体の運動 第2節 運動の法則 探究活動2 ① 力とのはたらき ② 力のつりあい ③ 運動の法則	
	----- 第1回考査		
	7	第3節 剛体 探究活動3	
	8	① 剛体にはたらく力のつりあい ② 剛体にはたらく力の合力と重心	
	9	第4節 仕事とエネルギー 探究活動4 ① 仕事 ② 運動エネルギー ③ 位置エネルギー ④ 力学的エネルギーの保存	
	----- 第2回考査		
	←-----		
後 期	10	〔第Ⅱ章 力と運動〕	26
	11	第1節 運動量の保存 探究活動5	
	12	① 運動量と力積 ② 運動量保存則 ③ 反発係数 第2節 円運動 探究活動6 ① 等速円運動 ② 慣性力	
	----- 第3回考査		
	1	第3節 単振動と万有引力 探究活動7 ① 単振動 ② 万有引力	
	2	〔第Ⅲ章 熱と気体〕 探究活動8	
	3	第1節 熱とエネルギー 第2節 気体のエネルギーと状態変化 ① 気体の法則 ② 気体分子の運動 ③ 気体の状態変化	
	----- 第4回考査		
	←-----		

5 その他

○単に知識として理解するだけでなく、学習内容と身近な自然現象を関連させて物事をとらえ、化学の有用性や学ぶ意義を感じてほしい。

○考査間に実験や観察による探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	化学	単位数	3単位
		学年等	2年生型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書:第一学習社「化学」</p> <p>副教材:第一学習社「セミナー化学」 数研出版「フォトサイエンス化学図録」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	化学的な事物・現象に関わりながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象から問題をみだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[第Ⅱ章 物質の変化と平衡] 第2節 電池・電気分解 第1節 化学反応と熱・光 [第Ⅰ章 物質の状態] 第1節 物質の状態変化 第2節 気体の性質 第3節 固体の構造	・定期考査 ・小テスト等 ・課題テスト等	・定期考査等 ・提出物等	・提出物等
	評価点	200点	200点	200点
後期	第4節 溶液の性質 [第Ⅲ章 無機物質] 第1節 周期表と元素の性質 第2節 非金属元素 第3節 典型金属元素 第4節 遷移元素	・定期考査 ・小テスト等 ・課題テスト等	・定期考査等 ・提出物等	・提出物等
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前 期	4	〔第Ⅱ章 物質の変化と平衡〕	30
	5	第2節 電池・電気分解	
	6	①電池 ②電気分解 ③電気分解の応用 探究活動1	
		第1節 化学反応と熱・光	
		①化学反応とエンタルピー変化 ②ヘスの法則 ③結合エネルギー	
		④化学反応と光 ⑤エントロピー 探究活動2	
		----- 第1回考査	
	7	〔第Ⅰ章 物質の状態〕	
	8	第1節 物質の状態変化	
9	①物質の三態とその変化 ②気体分子の熱運動と圧力		
	③飽和蒸気圧と蒸気圧曲線 探究活動3		
	第2節 気体の性質		
	①気体の法則 ②気体の状態方程式 ③理想気体と実在気体 探究活動4		
	第3節 固体の構造		
	①化学結合と結合の種類 ②金属結晶の構造 ③イオン結晶の構造		
	④共有結合の結晶の構造 ⑤分子結晶の構造 ⑥非晶質 探究活動5		
	----- 第2回考査		
		22	
後 期	10	第4節 溶液の性質	30
	11	①溶解と溶液 ②希薄溶液の性質 ③コロイド 探究活動6	
	12	〔第Ⅲ章 無機物質〕	
		第1節 周期表と元素の性質	
		①元素の分類と性質 ②化合物の性質と周期表	
		第2節 非金属元素	
		①水素 ②18族元素—貴ガス— ③17族元素—ハロゲン—	
		④16族元素—酸素と硫黄— ⑤15族元素—窒素とリン—	
		⑥14族元素—貴ガス— ⑦無機化学工業 探究活動7	
	----- 第3回考査		
1	第3節 典型金属元素		
2	①1族元素—アルカリ金属— ②2族元素—アルカリ土類金属—		
3	③両性を示す典型金属 探究活動8		
	第4節 遷移元素		
	①遷移元素 ②鉄 ③銅 ④銀 ⑤亜鉛 ⑥クロムとマンガン		
	⑦金属イオンの定性分析 探究活動9		
	----- 第4回考査		
		23	

5 その他

○単に知識として理解するだけでなく、学習内容と身近な自然現象を関連させて物事をとらえ、化学の有用性や学が意義を感じてほしい。

○考査間に実験や観察による探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	生物基礎	単位数	2単位
		学年等	2年生 国際コミュニケーションコース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書：「高等学校 生物基礎」(数研出版)</p> <p>資料集：「新課程 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版)</p> <p>問題集：「新課程 リードα 生物基礎 完成ノート」(数研出版)</p> <p>副教材：「新課程 リード light ノート 生物基礎」(数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようしたり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・定期考査 ・授業の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・実験ワークシートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点

後 期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・定期考査 ・授業の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・実験ワークシートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前 期	4	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性	20
	5	第2節 エネルギーと代謝	
	6	第3節 呼吸と光合成	
	予備学習 顕微鏡観察の基本操作		
	観察1 細胞の観察		
	第1回考査		
	◆-----		
	7	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA	15
	8	第2節 遺伝情報の複製と分配	
9	第3節 遺伝情報の発現		
実験2 DNAの抽出			
観察2 体細胞分裂の観察			
第2回考査			
◆-----			
後 期	10	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節	20
	11	第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき	
	実験3 運動によるからだの状態の変化		
	第3回考査		
	◆-----		
	12	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	15
	1	第2節 植生の分布とバイオーム	
	2	第3節 生態系と生物の多様性	
	3	第4節 生態系のバランスと保全	
実験4 身近な照葉樹とか緑樹の葉の比較			
第4回考査			
◆-----			

5 その他

- 授業では、他者と協働しながら、生命現象に関して思考することを通して、学びを深めていきます。自分の考えを積極的に表現することを心がけましょう。
- 授業では、たくさんの用語が登場します。それぞれの用語の意味を正確に理解していきましょう。用語が正確に理解できたら、用語どうしのつながりを意識しましょう。生命現象というのは多くの要素がつながってできています。このつながりを意識して学習を進めていくと、「思考力・判断力・表現力」の育成が図れます。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	生 物	単位数	3 単位
		学年等	2 年生 理科型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書：「生物」(数研出版)</p> <p>資料集：「新課程 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版)</p> <p>問題集：「新課程 リードα 生物基礎+生物」(数研出版)</p> <p>副教材：「進研 WINSTEP 生物 新課程版」(ラーンズ)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようしたり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前 期	第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・定期考査 ・授業の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・実験ワークシートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点

後 期	第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・定期考査 ・授業の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・実験ワークシートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前 期	4	第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞	30	
	5	第2節 タンパク質の構造と性質		
	6	第3節 化学反応にかかわるタンパク質 実験1 カタラーゼのはたらき		
		第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質		
				第1回考査
		◆-----◆		
		第3章 代謝		20
	7	第1節 代謝とエネルギー		
	8	第2節 呼吸と発酵 実験2 細胞内ではたらく酵素による酸化還元反応		
9	実験3 アルコール発酵			
	第3節 光合成 実験4 植物の光合成色素の分離			
		第2回考査		
	◆-----◆			
後 期	10	第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製	25	
	11	第2節 遺伝情報の発現 探究活動 遺伝暗号の解読		
		探究活動 ヒトのインスリン遺伝子		
				第3回考査
		◆-----◆		
	12	第3節 遺伝子の発現調節		30
	1	第4節 発生と遺伝子発現		
	2	第5節 遺伝子を扱う技術 探究活動 遺伝子組換え実験		
	3			
		第4回考査		
	◆-----◆			

5 その他

- 授業では、他者と協働しながら、生命現象に関して思考することを通して、学びを深めていきます。自分の考えを積極的に表現することを心がけましょう。
- 授業では、たくさんの用語が登場します。それぞれの用語の意味を正確に理解していきましょう。用語が正確に理解できたら、用語どうしのつながりを意識しましょう。生命現象というのは多くの要素がつながってできています。このつながりを意識して学習を進めていくと、「思考力・判断力・表現力」の育成が図れます。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	地学基礎	単位数	2
		学年等	2

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
使用教科書 副教材等	教科書: 高等学校地学基礎(数研出版) 資料集: 新課程二訂版 スクエア最新図説地学(第一学習社) 問題集: 新課程 リードα地学基礎(数研出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。
評価点	200	200	200

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	・第4編 地球の環境 ・第1編 活動する地球 ・第2編 移り変わる地球	定期考査	定期考査 パフォーマンス課題	パフォーマンス課題 振り返り
	評価点	100	100	100
後期	・第3編 大気と海洋 ・第4編 地球の環境 ・第5編 太陽系と太陽	定期考査	定期考査 パフォーマンス課題	パフォーマンス課題 振り返り
	評価点	100	100	100

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前 期	4	〔第4編 地球の環境〕 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動 2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境 〔第1編 活動する地球〕 第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 実習 地球の大きさ 2. 地球の構造 第2章 プレートの運動 1. プレートテクトニクスと地殻変動 2. プレートの運動のしかた 実習 プレートの移動速度 第3章 地震 1. 地震 2. 地震の分布 実習 震源の決定 第4章 火山 1. 火山活動 2. 火成岩 実験 マグマの発泡 実習 深成岩の観察 第1回考査	4
	5		
	6		16
	7	〔第2編 移り変わる地球〕 第1章 地層の形成	
	8	1. 堆積作用と堆積岩 2. 地層の形成 実験 地層中に形成される構造 実習 地層の観察 第2章 古生物の変遷と地球環境	16
	9	1. 化石と地質時代の区分 2. 古生物の変遷 実習 化石の観察 第2回考査	
	10	〔第3編 大気と海洋〕 第1章 地球と熱収支	
	11	1. 大気の大循環 2. 海水の運動 実験 海水の沈み込みモデル実験	
	12	1. 大気の大循環 2. 海水の運動 3. 日本の天気と気象災害 第3回考査	16
後 期	1	〔第4編 地球の環境〕 第1章 地球の環境と日本の自然環境 実習 防災マップの活用	
	2		
	3	〔第5編 太陽系と宇宙〕 第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体 2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球 第2章 宇宙の誕生 1. 宇宙の誕生 第4回考査	18

5 その他

- ①本授業は受けるものではなく、参加者全員で創る授業です。主体性をもって参加しましょう。
- ②問いを立てることは ABLE だけではなく、地学(科学)ともつながります。常に自分の中に問いを立てましょう。
- ③言葉を暗記するのではなく、常に現象や背景のつながり、仕組みを考えることで、論理的・科学的思考力を鍛えましょう。